

## &lt;目的&gt;

絹の新しい需要拡大の大きな方向は洋装分野への進出であり、そのため他の天然繊維との混紡あるいは合成繊維との混紡が行われている。本研究では絹と合成繊維の混用品を1浴で同じ色濃度に染色する、あるいは異色染を行うための基礎データを得ることを目的として絹、ナイロン、ポリエステルに対する分散染料の染着性と洗濯堅牢度を調べた。

## &lt;方法&gt;

マロニル基を含む新しい分散染料を2種類合成しそれを用いて絹、ナイロン、ポリエステルを一定温度で平衡染色し、吸着等温線を求めた。また、絹、ナイロンの洗濯堅牢度をJIS L0844 A-2号で調べた。

## &lt;結果&gt;

吸着等温線は分配型を示した。染着量は絹よりナイロンの方が多く、ポリエステルは殆ど染まらなかった。分散染料の無機性値/有機性値の値が小さいほど絹、ナイロンに対する染着量が多かった。洗濯堅牢度は低めで、染色した絹、ナイロンの変退色はあまり差がなかった。また、木綿は汚染しないがナイロンは僅かに汚染した。